

# 事務事業評価シート

年度

5

## 1. 基本情報

事業番号	030501010001	事務事業名	敬老事業
まちづくり目標	健やかな暮らしを守り支え合うまち	施策	高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり
基本施策	日常生活支援の充実	取り組み事項	在宅福祉サービスを充実する
部名	健康福祉部	課名	長寿福祉室
事業の開始	平成4年度	終了年度	なし
実施の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>最高齢者、最高齢夫婦及び100歳到達者を祝福(市長訪問及び祝金贈呈)</li> <li>80歳到達者記念写真撮影</li> <li>9月15日現在で77歳(喜寿)を迎えた方に「人生これから手当(1万円)」支給</li> </ul>		
対象	最高齢者、最高齢夫婦、100歳・80歳・77歳到達者		
目的	長寿を祝福することにより、高齢者福祉の増進を図ることを目的とする。		
事務事業類型	ソフト事業		
関連計画	高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画		
根拠法令	条例・規則・要綱 相生市百歳翁(嫗)敬彰要綱 相生市敬老祝金支給要綱		

## 2. 事業費

### (1)歳出

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算	令和7年度	令和8年度
正規職員数	0.35	0.4	0.49	0.49	0.49	0.49
会計年度任用職員数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人件費計	2,375,294	3,059,950	3,179,076	3,431,901	3,431,901	3,431,901
事業費計	6,887,956	5,702,913	4,913,853	8,405,000	8,795,000	8,295,000
フルコスト	9,263,250	8,762,863	8,092,929	11,836,901	12,226,901	11,726,901

### (2)歳入

単位:人、円

	実績値				計画値	
	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算	令和7年度	令和8年度
特定期定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他	6,887,956	5,702,913	4,913,853	8,405,000	8,795,000
フルコスト－特定財源	2,375,294	3,059,950	3,179,076	3,431,901	3,431,901	3,431,901
事業費計－特定財源	0	0	0	0	0	0

## 3. 評価指標

### (1)活動指標

指標名	【質】喜寿祝支給件数					
単位	人					
指標数値のめざす方向	維持					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
単年度計画値	497	381	315	550	580	530
単年度実績値	497	381	315			
前年比	－	76.65%	82.67%	－	－	－
単年度達成率	100%	100%	100%	－	－	－

## (2)コスト指標

指標名1		喜寿(77歳)祝支給1回あたりのコスト					
単位		円					
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
単年度計画値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
単年度実績値	10,000	10,000	10,000				

## 4. 事後評価

### (1) 評価のまとめ

評価視点	評価点	評価内容	課題認識
妥当性	B:比較的妥当である	長寿の祝いが一つの生きがいであり、百歳や最高齢者、最高齢夫婦などを迎えられる方は限られており、それを祝福することは社会的に妥当性が認められる。	なし
有効性	B:比較的有効である	対象者とその家族からは大変喜ばれておりニーズは高い。	なし
効率性	C:効率性が低い	H17年の88歳、H18年の99歳の支給廃止により、支給コストは低減したが、80歳到達者記念写真撮影の復活により増。H29年度において、77歳の祝品の削減、100歳の祝金の減額を行った。しかし、平均寿命が伸び、対象者が増加する中、再度見直しする必要性がある。	あり
改革・改善プラン達成度	B:比較的改革改善効果がある	80歳到達者記念写真撮影の実績が対象者の約7割となっている。内容を検討していく必要がある。	あり
透明性	B:比較的透明性を確保している	広報に掲載し、より多くの市民に周知出来ている。	なし

### (2) 総合評価

総合評価
B

### (3)方向性評価(担当者)

方向性	D:縮小
所見	敬老事業は対象者及びその家族からは大変喜ばれている。市長が訪問し直接祝うなど、敬老の思いを感じてもらい、高齢者の方に生きがいを持っていただくことができている。しかし、平均寿命が伸び、対象者が増加する中、再度見直しする必要性がある。
休止・廃止となったときの影響	敬老事業が廃止されることにより、受給年齢に近い高齢者については、落胆される可能性が高い。

### (4) 方向性評価(施策担当者)

方向性	D:縮小
所見	高齢者に生きがいを与える事業ではあるが、今後も事業内容については、社会情勢や近隣市町の動向を注視し、検討していく必要がある。